



## 次節情報

### 関東リーグ第21節

11月17日(土) Kickoff 14:00 vs 順天堂大学

### アクセス

○《味の素スタジアム西競技場》

TEL:03-3830-1850 (本連盟にご連絡下さい)

〒182-0032

東京都調布市西町 376-3

・京王線「飛田給」駅より、徒歩5分、または西武多摩川線「多磨」駅より、徒歩20分

# 週刊 ア式

## OFFICIAL MATCHDAY LEAFLET

Waseda University Association Football Club

【Vol. 20】2018年11月10日 発行

2018年度 関東リーグ 第20節

# 早稲田大学 VS 東京国際大学

**白** 熱した天王山の戦いは勝利こそ成し得なかったものの、粘り強い守備で「失点しない」という前節のテーマを完遂し、2位筑波大との勝ち点差を6に保った。勝てば他大学の結果次第で優勝が決まる今節は、前期終了間際の2得点で辛くも引き分けに持ち込んだ難敵東京国際大学との対戦である。二度の大敗を乗り越え、ドライブし続ける今の早稲田に恐れるものは何もない。いよいよ「タイトル奪還」のときがきた。悲願達成へ、いざ行かん。

## PICK UP PLAYER

先日、Jリーグ初先発で初ゴールを決め、名古屋グランパスを勝利に導いた早稲田の韋駄天。今節も持ち味のスピードとキックで相手を翻弄し、勝利の立役者となってくれるだろう。大学サッカーとの二刀流で活躍し続ける彼の勢いは誰にも止められない。



相馬  
勇紀

MF 4年  
三菱養和 SC ユース



# Kentaro Naoe

**早** 稲田実業からの7年間、早稲田の誇りと責任を背負って戦ってきた。ゴール前で積極果敢に足を振りぬく姿勢は、獲物を捕らえる虎を連想させる。勝負にこだわる熱き男は終わりゆく早稲田での時間で何を残すのだろうか。燃えるエンジンのストライカー直江健太郎が、最高のエンディングへと突き進んでいく。

## -----今期のチームの戦いぶりについて

リーグ戦の中で東洋戦だったり、明治戦だったり大差で負けたこともあって上手くいかなかった試合がなかったわけではない。だけどその中でも今の順位にしていることができるのは、自分たちが「これをやろう」って決めたことに対し

てみんなが真剣に取り組み続けたから。それはAチームでプレーしていてもわかるし、実際に自分がピッチに立っていても感じる事ができました。

## -----個人としての1年間

試合に出ることができたのも数えるほどだし、その中で2点しか取れなかったことに正直満足していないし、不甲斐ない結果ではあると思う。だけど4年目の難しさ、重圧がある中で、だからこそ得られるものは多かった。3年生までだったら自分のことだけを考えていたけど、そこはやっぱり4年という立場もあるし、「自分が」っていうベースの上に、周りをどう巻き込んでいくのかを自分がA、Bどちらにいても常に意識していました。

## -----グラウンド管理とって仕事について

グラウンド管理係の主な実務としては、毎月のサッカー場と共有グラウンドのグラウンドスケジュールを作るということです。ア式をはじめ、ア女（女子部）、学院、早実、ラクロス部などの時間を振り分けることが主な仕事で、その

中で意識していることは、できるだけア式だけじゃなくて他団体の要望を受け入れられるように、ということですよ。

## -----ア式で成長できた部分とは

難しい、いろいろあるなあ。まあこれは良くも悪くもだけど、自分の中の芯というか幹がすごい太くなったなあって思う。これはサッカー中のことだけど、1年とか2年の時とかは自分のやりたいことがあった中で周りに「こっちはパス出せよ」って言われたときに「今の出した方がよかったのかな」って迷いながらプレーすることが結構あったけど、それが上級生になるにつれて徐々になくなってきた。もちろん周りの関係とかをうまく築きながらプレーする中で、自分が自信をもって「これだ」っていう判断ができるようになった点は、高校時代とかに比べると成長したかなって思っている。例えば今年の自分の関東リーグの2得点を振り返ってみても、あの場面でシュート以外の他の選択肢もあったけどそこでシュートを選択したというあの判断は、やっぱり自分がここでやってきて、ここなら

入るなどという自信からシュートを振り抜けたと思うので、「自分の判断に自信が持てるようになった」という点は成長できた部分なのかなと思います。

### -----早稲田実業出身の同期について

まず純平に関してだけど、去年はベンチに入って試合にも出ていた中で、今年も自分でもうまくいっていいと思っていては。でもぶれることなく、Aチームだから、Bチームだからということに関係なく、一喜一憂せずに自分のやらなければいけないことを全うしている姿は高校時代から変わっていない。そこは自分には足りてないところで、今も「すごいな」って思いながら見ている。ただ高校時代の方が良くも悪くもうるさかったなあって思う。早実ではキャプテンという立場だったし、それが代々受け継がれてきたキャプテンの姿勢だったという理由があるかもしれない。ただ大学入ってから、最終ラインで「俺が一番叫んでる」ってくらいうるさくてもよかったのかなって高校から一緒にやってきた身としては感じていますね（笑）

あとはえの（榎本）について。えのは3年間Bチームでプレーする時間が長くて、たぶん本人の中でも悩みとか葛藤とかもあったと思う。でもそこで腐ることなくチームのために身を粉にして戦う姿は本当に高校時代から変わってないえのの姿だと思うし、それが積み重なって（本人は納得できないプレーだったかもしれないけど）関東リーグのピッチに立ったってことは早実時代の同期としてあの瞬間が嬉しかった。残り少ないなかで純平含めて3人でピッチに立ちたいって思いはすぐあります。

### -----4年生に気分屋といわれていますが

まあそこは自分でも思うかなあ（笑）特に下級生の時はさっきも言ったように周りの意見とか言葉に一喜一憂しちゃう弱さがあった、それが行動だとか言動に出ていた自覚は正直あるかな（笑）

### -----4年生とは

本当に仲がいいし、お互いがお互いのことをよく見ているという印象がある。だからこそ何か問題が起きた時すぐに全員で解決しようとするし、全員が一つの物事に対して自分事として考えら

れることは、自分たちの良さだと思う。その反面、自分たちの中だけで小さくまとまって外に発信しない、これくらいやっているからいいだろうと（そういう思いは持つてなくても）周りから見たらそう思われてしまっている。そこは仲が良いう反面、自分たちに足りてないところかなとは思いますが。残り1か月半くらいだけど、少しでもそこを克服したいし、各々が自分の主張を外に発信することはチームを活性化させたり、自分が試合に出ることもつながっていくと思うので、学年としても自分としても最後の試練かなと思います。

### -----4年間の振り返りと残りのア式生活

#### への抱負

正直去年までの3年間は試合にもろくに出られず、Aチームでプレーこそできていたけど、それでしかなくて、そこに対する悔しさをずっと持っていた。でもその3年間があったからこそ、今年の試合に出るとか点を取るという結果につながっていると思うので、自分の3年間についてはやってきてよかったなあって思います。ただ今年の結果には全然納得して

ないから、残りの3節とインカレを含めて公式戦に1試合でも多く出場して、1点でも多く点を取って、最後に自分たちの代で優勝して笑って終われるようにここからまた頑張っていきたいと思いません。

# 技

巧派天才ミッドフィールダー、山本隼平。ピッチでは華麗なテクニクで相手を翻弄し、中盤でリズムを作り続ける。ピッチ外では、誰もが認めるほどチームに緩やかで心地の良い風を送り込む。彼の天真爛漫な性格は、いわばア式のオアシス。ピッチ内外のファンタジスタ、山本に優勝のかかった今だからこそフォーカスする。

# Syunpei Yamamoto

## ――寮長の仕事について

寮長はア式だけの寮長じゃなくて、紺碧寮全体の寮長だから、まずそのルールとかマナーをしっかりとさせること。あとは新入生とか練習生が来た時に、その対応とかその手続きとかが主な仕事。その手続きでミスがあったら、向こうに迷惑がかかるからそこは気を付けています。

## ――寮に住んでいる後輩について

本当にみんな楽しそう(笑) 俺らの代から同部屋が同じ学年になるようにした。1個上の代は1・3、2・4年にしている、俺らの代から同じ学年にしたんだけどそれによって一番は選手の居心地がよくなったと思う。

## ――後輩への接し方で意識していること

うーんそこまで意識はしてないけどあんまり人に怒ることが好きじゃないし、人と接するときには俺がばかになって相手を楽しませる。それが俺の接し方(笑)

## ――4年生の中の自分の立ち位置

俺はマジで馬鹿だからおバカ隊長みたいな感じ(笑) とりあえずその場を楽しませるし、人をいじることが好きだから

ら、人をいじってその場を盛り上げるみたいな役割かな(笑)

――U16の世代別代表に選出されたことがあると聞きましたが、早稲田での現状と理想の間に葛藤はありますか？

1、2年のころはプライドが邪魔をして、「なんでダメなんだろう、なんで試合に出れないんだろう」って思っていたけど、よく考えてみると全然力が足りないことに気づいて、早稲田のサッカーに合わせないといけないし、自分のやりたいプレーを捨てて、とりあえずそのサッカーにフィットしようって頑張っていたけどやっぱり全然足りなかった。

## 順位表(第19節終了時点)

1	早稲田大学	40
2	筑波大学	34
3	順天堂大学	31
4	法政大学	31
5	明治大学	29
6	駒澤大学	29
7	東洋大学	27
8	流通経済大学	26
9	桐蔭横浜大学	22
10	専修大学	22
11	東京国際大学	15
12	国士館大学	11

## -----成長した部分

自分と向き合う時間が増えたから、自分に変化するために、チャレンジできるようになった。結果として公式戦にも出れたしね。

## -----4年間の振り返りと残りのア式生活への思い

優勝がかかっている時に、自分はケガをしていてそれに関われないし、優勝の瞬間に関われないのは悔しいけど、それ以外のことも優勝に向かって何か他の事はできると思う。4年でもみんなが絶対優勝しようって言っているし、そこに向けて自分も力になれればいいなと思います。あとちょっと話はずれちゃうけど、サッカーをしていて、組織力ってすごく大事だと思った。例えば早稲田や筑波って規律とかも含めてまとまりがある。そういうチームが結果を出せると思うし、そういう意味での組織力は大事かなって思う。もちろん個も大事だけど個では勝てない分、組織で戦うのも大事だと思うので、そこは今後の人生でも大事にしていきたいと思います。



# Takumi Hiraoka

## 将

来の夢。彼にとってそれはプロサッカー選手になることではない。

「監督になる」それは誰よりも尊敬し、誰よりも憧れてきた父の背中を追いかけるということ。この夢に向かい、彼は彼なりのア式人生を歩んできた。攻撃陣と守備陣を繋げるコンダクターとして、後輩と先輩を繋げる架け橋として、平岡拓己が紡いできた4年間にスポットライトを当てる。

## -----ア式に入った経緯

将来監督になりたいという夢があった。大学でもトップレベルのチームでプレーして、いろいろ学びたいなと思って早稲田大学を選びました。

## -----お父さん(大津高校監督・平岡和徳さん)の存在について

高校時代は部活の監督だったから、父というよりは監督という存在だった。今でも俺が一番尊敬できる人は父で、一言で言ったら目標でもある。お父さんと一緒に全国制覇したいっていう選手としての目標があって大津高校に入ったけど、それを叶えることができなかった。今の目標として、まずはコーチとして父さんの下について全国制覇を目指すこと、もしそれも叶わないとしても、自分が監督として全国を制覇することを掲げている。それを目指すうえで、父は師匠という存在でもあるかな。

## -----Bチームの練習を作る上で意識していること

何をコンセプトにして練習するかが大事。Bチームで出た課題を含め、Aチームとして出た課題を、一つのチームとして同じ方向性を持って取り組む。その共通理解のもとで練習を組んでいます。

## -----Bチームに関する今後の葛藤

オーガナイズをしながら練習しているから、練習だけに意識を向けられない時

もあるし、オーガナイズの方に気を取られる時もある。そういう面でうまく練習に入り込めない時もあるから葛藤もある。でもそれは監督になるという自分の夢に繋がるし、プレイヤーとしてもそこから学ぶことはとても多くあって、客観的に自分を見つめる一つの手段にもなっているから、非常にいい経験をさせてもらっていると思います。

### -----競スポという仕事について

大きく言うとア式と学校との連携を図る役職。例えば合宿の手続きや、学校側での手続きとか部員の登録とか。あとは大学が主催するイベントに対しての運営もア式の代表、責任者として務めるのも大きな仕事。

### -----仕事に対する思い

大学があつての部活だから、大学に良い印象を持ってもらえないと支えてもらえなくなるかもしれない。だから大学に対してア式ができることを最大限に行つて、言われてからではなく、率先して自ら行動することを意識しています。

-----伝説のエピソードがあると聞きましたか……

練習生のころにみんなと同じ期間で入部が認められなくて、1か月くらい悩んでいた。その期間があまりにもストレスと不安と、それこそ恐怖で、脳震盪になつて練習を休みたくなつた。それで寮の3階のトイレに頭を打ちつけていたことが、伝説のエピソードだと思う。どうやったら頭から血が出るかなと思つてね(笑)

### -----後輩への接し方について

4年生にはいろいろな役割があるけど、後輩との壁をなくすことが自分のできることだと思う。だからそこは積極的にやろうかなと思つています。マスコットのな役割つて書いておいて(笑)

### -----教員免許を取得したと聞きましたか、理想の教師像とは

理想の教師像は、生徒自身に対して情熱をもって接することができる教師。イチャ・オシムの言葉に「人は利益と恐怖でしか動かない」という言葉がある。体罰とかが問題になっているように、恐怖で生徒を抑圧して動かす先生もいるけど、もし自分が教師になったら利益で生徒を動かしたい。「こういうことをした

ら成長できるよ」という道を見せて、生徒に率先して行動させる教師になりたい。その一つとして選手や生徒の心の中に火をつけることのできる教師像も描いている。それは言葉で火をつけるのもそうだし、自分自身が生徒の将来に対して本気になつて向き合うことでそれが伝わつて生徒自身の内側に火が付くこともあるかもしれない。そんなことができる教師を目指しています。

### -----4年間の振り返り

今もBチームにいるけど、サッカーでうまくいかない時期が長い中で、自身に自信が持てなかったり、サッカーをやめようと思つた時期もあった。だけどその中でも同期だったり先輩後輩であったり、スタッフの方々の存在っていうのは本当に大きくて、いろいろな面で助けてもらつて支えてもらった。あと1か月半で短いけど、その中でチームのためになにか、まずはプレーで表現できるように頑張りたいと思います。